

## 専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインの項目とその対応

### (1) 学校の概要、目標及び計画

#### 【所在地、連絡先、校長名等】

学校名 愛知ペット専門学校  
校長名 牧 良  
設置者名 学校法人アイピーシー学園  
代表職氏名 理事長 牧 良  
学校所在地 〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鰻池246-1

#### 【学校の沿革・歴史】

設立認可年月日 平成20年2月22日  
設置認可年月日 平成20年2月22日  
開校年月日 平成20年4月1日

#### 【教育活動・カリキュラム・施設・設備・学習環境】

ペットについて体系的な学習環境を提供するため、実践的に学べる環境を重視する。本校では、実習動物と共にのびのびと走り回れる広い敷地や、ペットビジネスの現場で役立つ実習のできる施設・設備としてあらゆるIPCグループ（株式会社アイピーシー）のペットビジネス施設を実習に役立てると共に、一人一頭の担当犬を与え、自分で犬を飼うようにして学べる担当犬制度をシステムとしたカリキュラムにより、情操の涵養並びに動物の習性生理を、身をもって理解できる教育活動を実施している。

（関連リンク）[http://aichipet.com/?page\\_id=154](http://aichipet.com/?page_id=154)

#### 【学校の教育目標】

本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、社会に貢献しうる有能な人材としてペットの専門家を育成することを目的とする。

#### 【学校の経営方針】

本校の経営方針は、健全なる財務体質を基礎とし、教育指導計画の実現において、全教職員が一丸となって取り組み、学生がペットの専門分野の将来の担い手となれるよう教育機関としての責務を果たすこととする。

#### 【教育指導計画】

本校は、「学校の教育目標」を念頭におき、その教育方針を定めることとする。

##### <教育方針>

- ①ペットのライフスタイルにおける「“ゆりかご”から“別れ”まで」を意識し、オールジャンルで活動できる人材育成を図る。
- ②旧来のペット文化にとらわれず、海外の進んだペット文化も取り入れつつ、新たな日本のペット文化の担い手を育成する。
- ③地域・各団体と連携し、ペットへの理解と正しい知識の啓蒙活動を積極的に実現できる人材育成に努める。

##### <目指す学校>

###### ①目指す学校像

- ア 創造性や先見性のある学校
- イ 学生の満足度が高い学校
- ウ 地域・業界から信頼される学校

###### ②目指す生徒像

- ア 自主・創造の精神に溢れた生徒
- イ 動物を慈しみ、命を守ることにに対する責任感を持った生徒
- ウ 逆境を跳ね返す心身ともにたくましい生徒

###### ③目指す教師像

- ア 教育に対する高い志と使命感を持った教師
- イ 授業力・指導力向上を目指し、常に自己研鑽に励む教師
- ウ 共感的態度と協働の精神に溢れた教師

##### <重点目標>

- ①ペットとのふれあいの中から、動物の状態を肌で理解できる実践的な事業者を輩出させる。
- ②実習から学ぶ重要性を認識させるとともに、さらなる探究心をやどさせ、新しい分野を切り開く力を構築させる。
- ③将来の事業人として、社会的責務や責任ある行動を熟知させ、ペット業界で何をすべきかの志を高くかかげさせ、その実現性への一歩を踏ませる。

(2) 各学科等の教育

【各学科の定員数、入学者数、在學生徒数】

平成28年5月1日現在

学科	修業年限	総定員数	入学者数 (H28.4)	在學生徒数
ペットトリマー科	2年	40人	14人	23人
ドッグトレーナー科	2年	40人	14人	30人
動物看護科	2年	40人	9人	21人
ペットアドバイザー科	2年	40人	4人	11人

【進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）】

各学期末に行う試験、実習の成果や出席時数等の履修状況等を総合的に勘案して成績評価を行う。また、2年の修業年限以上の在学及び開設する授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者に卒業認定を行う。

【学習の成果として取得を目指す資格等】

資格・検定の名称	資格・検定の概要
日本愛玩動物協会 愛玩動物飼養管理士	ペットの愛護及び適正な飼養管理の普及啓発活動などを行うために必要な知識・技能を学びます。
全国ペット協会（ZPK） 家庭動物管理士	ペットを扱う上で欠かせない知識を学びます。生体に関する知識だけでなく、関連法令や衛生管理、接客の基本まで幅広く学びます。
日本動物専門学校協会（NAVA） ペットケアアドバイザー	主に犬・猫の飼育方法、身体の仕組み、基本的な疾患など、ペットを扱う上で必要となる基本的な知識を習得します。
日本動物専門学校協会（NAVA） トリマー	「スタンダードを理解したペットトリマーの育成」という指針で、確かな専門知識と技術向上、そして社会的ニーズに沿うことを目標とした資格です。
日本動物専門学校協会（NAVA） ドッグトレーナー	犬の学習原理、しつけ訓練の進め方などドッグトレーニングに必要な知識と技術、飼犬の問題行動に対するカウンセリング・テクニックを学びます。
日本動物専門学校協会（NAVA） ドッグブリーダー	犬本来の習性や形態等の理解、関係法令の順守を前提として、顧客満足度を高めることを目的とした販売活動等を学びます。
国際ペットカルチャー協会（IPC） Veterinary Nurse	オーナー対応、検査方法、手術準備等動物看護師として必要な専門知識・技術を習得するための資格です。
ペットエステ国際協会（PEIA） BRONZE Class/SILVER Class	犬に対するタラソセラピーやアロマセラピー、アンチエイジングなど健康と癒しの技術を学びます。
日本ペットシッター協会 ペットシッター士	ペットの置かれた生活空間を良く理解し、必要があればオーナーに適切なアドバイスもできる。ペットにもオーナーにも信頼されるペットシッターを目指します。
動物看護師統一認定機構 動物看護師統一認定試験	動物看護職の知識・技術の高位平準化の推進、適正な獣医療の提供体制の整備に寄与することを目的とした全国統一試験です。
日本商工会議所 リテールマーケティング販売士検定	小売店舗運営の基本的な仕組みを理解し、販売員としての基礎的な知識と技術を身につけます。
日本損害保険協会 損害保険募集人	保険代理店であるペットショップで顧客に対して保険商品を勧誘・契約する際に必要な資格です。
日本商工会議所 PC検定	データ活用では、表やグラフの作成、業務データの処理を行い、的確なデータ分析や効果的な資料の作成等を目指します。
実務技能検定協会 ビジネス系検定	ビジネス実務マナー検定やビジネス電話検定、秘書検定など、各分野に特化した内容で、より実務的な学習ができます。
職業教育・キャリア教育財団 ビジネス能力検定	社会人に必要な仕事の能力を評価する試験です。就職（就活）前におさえておきたいビジネス知識や社会人のマナーなどを学びます。

【卒業生数、卒業後の進路（就職者数・主な就職先）】

平成 27 年度末 (H28.3)	合計
在籍者数	62 人
卒業生数	62 人
就職希望者数	61 人
関連分野就職者数	54 人
関連外分野就職者数	7 人
内定取消者数	0 人
進学者数	0 人
就職率	100%

【カリキュラム（科目配当表等）】

<ペットトリマー科>

科目区分	1年次					2年次							
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法			
教養的科目	ペット一般教養Ⅰ	1後	15	1	講義	ペット一般教養Ⅱ	2通	30	2	講義			
	特別活動Ⅰ	1通	60	2	実習	特別活動Ⅱ	2通	60	2	実習			
共通科目	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習		
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習		
		動物形態機能学Ⅰ	1前	30	2	講義							
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義							
		動物健康管理	1前	15	1	講義							
		動物医療関連法規Ⅰ	1前	15	1	講義							
		動物行動学Ⅰ	1前	45	3	講義							
		飼養管理学Ⅰ	1後	15	1	講義							
専門科目	専門科目	専科講義	1後	15	1	講義	トリミング学	2通	15	1	講義		
							基礎接客対応	2通	15	1	講義		
							犬舎実習	2通	90	3	実習		
							ベーシックテクニックⅠ	2前	30	1	実習		
							トリミングテクニックⅠ	2前	150	5	実習		
							トリミングテクニックⅡ	2後	180	6	実習		
							飼育管理実習Ⅱ	2通	220	7	実習		
		職業実践科目	職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	エステティックテクニック	2通	30	1	実習
				飼育管理実習Ⅰ	1通	90	3	実習					
動物飼育実習Ⅰ	1前			45	1	実習							
動物飼育実習Ⅱ	1前			90	2	実習							
動物飼育実習Ⅲ	1後			90	2	実習							
専科実習	1通			255	8	実習							
		17	960	35			12	895	34				
							計	29	1855	69			

<ドッグトレーナー科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
共通科目	教養の科目	ペット一般教養Ⅰ	1後	15	1	講義	ペット一般教養Ⅱ	2通	30	2	講義
		特別活動Ⅰ	1通	60	2	実習	特別活動Ⅱ	2通	60	2	実習
	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学Ⅰ	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規Ⅰ	1前	15	1	講義					
動物行動学Ⅰ	1前	45	3	講義							
飼養管理学Ⅰ	1後	15	1	講義							
専門科目	専科実習	1通	270	9	実習	高等訓練学	2通	15	1	講義	
						専科選択科目	2通	45	3	講義	
						犬舎実習	2通	90	3	実習	
						飼育管理実習Ⅱ	2通	220	7	実習	
	職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス	2通	120	4	実習
飼育管理実習Ⅰ		1通	90	3	実習	訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス	2通	90	3	実習	
動物飼育実習Ⅰ		1前	45	1	実習	専科選択実習	2通	90	3	実習	
動物飼育実習Ⅱ		1前	90	2	実習	能力開発実習	2通	60	2	実習	
動物飼育実習Ⅲ		1後	90	2	実習						
		16	960	35			12	895	35		
							計	28	1855	70	

<動物看護科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
共通科目	教養の科目	ペット一般教養Ⅰ	1後	15	1	講義	ペット一般教養Ⅱ	2通	30	2	講義
		特別活動Ⅰ	1通	60	2	実習	特別活動Ⅱ	2通	60	2	実習
	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学Ⅰ	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規Ⅰ	1前	15	1	講義					
専門科目	動物行動学Ⅰ	1前	45	3	講義						
	飼養管理学Ⅰ	1後	15	1	講義						
	公衆衛生学	1後	30	2	講義	動物形態機能学Ⅱ	2通	120	8	講義	
	動物人間関係学	1後	30	2	講義	動物病理学	2前	30	2	講義	
	動物行動学Ⅱ	1前	15	1	講義	動物疾病看護学	2通	150	10	講義	
	動物福祉論	1後	30	2	講義	動物薬理学	2後	30	2	講義	
	飼養管理学Ⅱ	1通	45	3	講義	動物感染症学Ⅰ	2前	30	2	講義	
	動物看護学	1前	15	1	講義	動物感染症学Ⅱ	2前	30	2	講義	
	臨床動物看護学	1後	90	6	講義	動物栄養学Ⅰ	2前	30	2	講義	
	動物臨床検査学	1後	30	2	講義	動物栄養学Ⅱ	2後	45	3	講義	
	救急救命対応	1後	15	1	講義	動物医療関連法規Ⅱ	2前	15	1	講義	
						動物繁殖学	2後	15	1	講義	
						動物入院管理	2前	30	1	実習	
						幼齢動物・高齢動物管理	2後	30	1	実習	
						クライアントエデュケーション	2前	30	1	実習	
						動物看護実習Ⅱ	2通	135	3	実習	
						動物臨床検査学実習Ⅰ	2通	90	2	実習	
						動物臨床検査学実習Ⅱ	2通	135	3	実習	
						外科動物看護実習Ⅰ	2後	45	1	実習	
						外科動物看護実習Ⅱ	2後	45	1	実習	
職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	総合臨床実習	2通	135	3	実習	
	飼育管理実習Ⅰ	1通	90	2	実習						
	動物飼育実習Ⅰ	1前	45	1	実習						
	動物飼育実習Ⅱ	1前	90	2	実習						
	院内コミュニケーション	1通	75	2	実習						
	動物看護実習Ⅰ	1後	90	2	実習						
		25	1065	47			23	1335	58		
							計	48	2400	105	

<ペットアドバイザー科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
共通科目	教養的科目	ペット一般教養 I	1後	15	1	講義	ペット一般教養 II	2通	30	2	講義
		特別活動 I	1通	60	2	実習	特別活動 II	2通	60	2	実習
	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学 I	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規 I	1前	15	1	講義					
専門科目	専門基礎科目	動物行動学 I	1前	45	3	講義					
		飼養管理学 I	1後	15	1	講義					
		専科講義	1後	45	3	講義	ペットショップマニュアル	2通	30	2	講義
							動物感染症学 I	2前	30	2	講義
							動物栄養学 I	2前	30	2	講義
							動物繁殖学	2後	15	1	講義
	専門科目						幼齢動物・老齢動物管理	2後	30	1	実習
							専科実習 II	2通	315	10	実習
職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	ペットショップ実習	2通	60	2	実習	
	飼育管理実習 I	1通	90	3	実習	飼育管理実習 II	2通	220	7	実習	
	動物飼育実習 I	1前	45	1	実習						
	動物飼育実習 II	1前	90	2	実習						
	動物飼育実習 III	1後	90	2	実習						
	専科実習 I	1通	225	7	実習						
		17	960	36			12	895	36		
							計	29	1855	72	

### (3) 教職員

#### 【教職員数（職名別）】

平成28年5月1日現在

	専任	兼任	計
教員	5人	19人	24人
職員		5人	5人
計	5人	24人	29人

#### 【教職員の組織・活動】

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。

### (4) キャリア教育・実践的職業教育

#### 【キャリア教育への取組状況】

「産学連携」をテーマに地域交流及び公開授業等の強化を図る。ZPK全国ペット協会、NAVA日本動物専門学校協会とのネットワークを最大限活用し、各科の教育方針に新しい風を吹き込み、教育課程の編成に取り組んでいる。

#### 【実習・実技等の取組状況】

##### （ペットトリマー科）

本年度期首に資格試験等の目標設定と周知のため、資格試験の標準化を目標とした。昨年度より導入しているNAV Aトリマーライセンスは夏期補習等により実習時間を増量し3級から1級とステップアップできるようスケジュールリングし、全員の合格を目標としている。また、H29年2月に開催予定の全国トリミングコンテストへの入賞を目標とし、IPCグループ内でのトリミングコンテストを実施して個々の課題を見出し、反省とした。教員研修については、ペットエステの業務研修に7月、教員1名を参加させ、スピードトリミング技法の周知徹底の為の施術を授業で多く取り入れている。資格試験の標準化のため、NAVA認定講師を招いた。

##### （ドッグトレーナー科）

本年度期首に掲げた資格取得については94%の学生がNAVAドッグトレーナー2級、日本ペットシッター協会ペットシッター士の2つの資格取得を達成している。ビジネス系資格でサービス接客検定もしくはビジネス能力検定を検討している。授業計画の告知・周知については、月間・年間予定を確認し、学生自身が明確な反省と個人目標を持てるよう図っている。授業計画として、6月に麻薬探知犬管理センターの見学講習会を行った。昨年の反省から事前レクチャーを施し、活発に質問等を行うこと、訓練士の職業観を得られた。教員研修については、コミュニケーションスキルの向上のため、書面報告を毎週することで、成果確認の上、学生への指導に活かしている。指導要領の周知徹底の一環として、日本レスキュー協会講習会では当校教員の実地訓練を見ていただき、指導を受けることができた。

##### （動物看護科）

本年度も引き続き、ビジネスマナーの向上を掲げ、挨拶運動を積極的に推進している。メモをとることや個々の課題のリストアップを習慣付けるため、指導を継続している。資格試験等の目標設定については、コアカリキュラム2400時間とのバランスが困難で参加する学生はいない。教員研修については、連携を図る目的のミーティングが簡単な報告・確認となっており、授業中の学生の様子など詳細なミーティングを行い、授業内容の見直し等を図っていく。

##### （ペットアドバイザー科）

当学科は資格取得を具体化したキャリア教育を重点課題としている。就職活動並びに社会人の準備として、本年度よりビジネス能力検定（B検）の受験を検討している。資格試験については、NAVAドッグブリーダーライセンスと日商販売士を目標とし、ZPK家庭動物管理士と損保募集人については就職活動の核としたい。卒業生から“猫”についてもっと勉強しておけばよかったとの意見を聞く機会が増えており、今後の授業に活かせるよう検討している。教員研修については、この“猫”を含めて企業と連携が図れるよう準備していく。

#### 【就職支援等への取組状況】

1年次では全学生に対しペットパーク等でのインターンシップを実施（「インターンシップ」通年30単位時間）、社会人としての基礎マナー等を身に付け、2年次での就職活動に移行できるよう、産学連携という最大のメリットを活かした就職支援を実施している。

（関連リンク） [http://aichipet.com/?page\\_id=669](http://aichipet.com/?page_id=669)

### (5) 様々な教育活動・教育環境

#### 【学校行事への取組状況】

動物飼養施設の清掃及び定期的な消毒等のもとより、学校敷地周辺地域の清掃活動を通して、動物飼養施設周辺環境保全並びに地域の美化活動に努めている。また、平成25年5月より岡崎市環境部の「イエローカード大作戦」に参加、ペットの糞対策への取り組みを継続している。

【課外活動に対する支援体制への整備】

ペット関連事業における外部団体でのコンクール参加または研修等を積極的に行うよう教務部では指導を行っている。また、就職部からも就職に直結するような研修はより積極的に参加を呼びかけ、その参加状況や外部の企業団体からその状況のアンケート等を実施し、本課内での指導を改善できるよう行っている。

(6) 学生の生活支援

【学生支援への取組状況】

学生からの学内における全ての一次的な窓口として担任制を機能させている。学生の進路、生活面等の相談窓口となり、随時個人面談等を実施している。また、学生の健康管理のため年に1度全学生を対象として定期健康診断を実施している。

(7) 学生納付金・就学支援

【学生納付金の取扱い】

授業料・入学金の費用に関する金額については各年度に発行される募集要項に記載された金額とし、その徴収時期に関しては原則として下表の通り設定する。

入学金		前期授業料ほか	後期授業料ほか
入学時 (1年次)	合格日より10日以内	合格日より1ヶ月以内	8月
2年次 (進級時)	なし	1年次在学中の2月	8月

【学費及びその他の費用】

	施設管理費	実習費	授業料	合計
一年次前期	84,000	136,500	315,000	535,500
一年次後期	84,000	136,500	315,000	535,500
二年次前期	84,000	147,000	315,000	546,000
二年次後期	84,000	147,000	315,000	546,000

※入学時教材費、実習ユニフォーム費用、専科決定時及び2年次進級時には専攻学科別による別途教材費、実習ユニフォーム費が必要。また、学校行事、各種資格検定等の受験・取得時には別途諸費用を要する。

(参考：平成27年度)

学科	教材費等
ペットトリマー科	399,847円
ドッグトレーナー科	300,982円
動物看護科	313,908円
ペットアドバイザー科	307,867円

【活用できる就学支援措置の内容等】

本校では、学生納付金等の納付等に係る支援として、学校独自に「IPC特待生制度」を設け、各種奨学金または教育ローンの紹介等を実施している。

(関連リンク) [http://aichipet.com/?page\\_id=145](http://aichipet.com/?page_id=145)

(8) 学校の財務  
・財産目録

学校法人 アイビーシー学園

財産目録  
平成28年3月31日現在

I 資産総額	317,404,574 円
内 基本財産	132,413,725 円
運用財産	184,990,849 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	80,473,588 円
III 正味財産	236,930,986 円

区 分	金 額
I 資産総額	
1.基本財産	
土地	846.28 m <sup>2</sup> 93,100,000 円
建物	758.26 m <sup>2</sup> 34,490,912 円
構築物	点 1,381,175 円
教具・校具・備品	点 3,039,345 円
図書	冊 402,293 円
計	132,413,725 円
2.運用財産	
現預金	160,274,499 円
未収入金	91,000 円
その他	24,625,350 円
計	184,990,849 円
3.収益事業用財産	0 円
資産総額	317,404,574 円
II 負債総額	
1.固定負債	
その他	800,000 円
2.流動負債	
その他	79,673,588 円
負債総額	80,473,588 円

貸借対照表

第6号様式

法人名：学校法人 アイビーシー学園

貸借対照表

平成 28年 3月 31日

(単位：円)

資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定資産		( 132,413,725 )	( 134,895,765 )	(△) 2,482,040
有形固定資産		( 132,413,725 )	( 134,895,765 )	(△) 2,482,040
	土地	93,100,000	93,100,000	0
	建物	34,490,912	36,954,548	△ 2,463,636
	構築物	1,381,175	924,563	456,612
	教育研究用機器備品	1,213,091	1,279,013	△ 65,922
	その他の機器備品	1,826,254	2,235,348	△ 409,094
	図書	402,293	402,293	0
流動資産		( 184,990,849 )	( 202,737,961 )	(△) 17,747,112
	現金預金	160,274,499	174,058,761	△ 13,784,262
	未収入金	91,000	0	91,000
	前払金	23,579,100	27,029,700	△ 3,450,600
	未収授業料	1,046,250	1,649,500	△ 603,250
資産の部合計		317,404,574	337,633,726	△ 20,229,152
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定負債		( 800,000 )	( 500,000 )	( ) 300,000
	退職給与引当金	800,000	500,000	300,000
流動負債		( 79,673,588 )	( 101,753,141 )	(△) 22,079,553
	未払金	23,654,617	33,207,217	△ 9,552,600
	前受金	54,799,500	68,187,000	△ 13,387,500
	預り金	229,328	236,404	△ 7,076
	仮受金	990,143	122,520	867,623
負債の部合計		80,473,588	102,253,141	△ 21,779,553
基本金の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
基本金の部合計		0	0	0
消費収支差額の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
	翌年度繰越消費収支超過額	236,930,986	235,380,585	1,550,401
消費収支差額の部合計		236,930,986	235,380,585	1,550,401
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計				
科	目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計		317,404,574	337,633,726	△ 20,229,152

# 資金収支計算書

第1号様式

法人名：学校法人 アイビーシー学園

## 資金収支計算書

平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	( 132,500,000)	( 129,404,500)	( 3,095,500)
手数料収入	( 4,260,000)	( 4,283,680)	(△ 23,680)
補助金収入	( 2,750,000)	( 2,678,520)	( 71,480)
資産運用収入	( 50,000)	( 31,758)	( 18,242)
雑収入	( 0)	( 20,000)	(△ 20,000)
その他の雑収入	0	20,000	△ 20,000
前受金収入	( 84,210,000)	( 54,799,500)	( 29,410,500)
その他の収入	( 25,649,500)	( 19,607,536)	( 6,041,964)
資金収入調整勘定	(△ 68,187,000)	(△ 68,187,000)	( 0)
前年度繰越支払資金	174,058,761	174,058,761	
収入の部合計	355,291,261	316,697,255	38,594,006

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	( 61,100,000)	( 60,546,199)	( 553,801)
教育研究経費支出	( 40,600,000)	( 39,210,664)	( 1,389,336)
管理経費支出	( 32,240,000)	( 31,320,546)	( 919,454)
施設関係支出	( 1,000,000)	( 549,504)	( 450,496)
設備関係支出	( 1,700,000)	( 459,104)	( 1,240,896)
その他の支出	( 110,407,217)	( 74,945,539)	( 35,461,678)
資金支出調整勘定	(△ 67,029,700)	(△ 50,608,800)	(△ 16,420,900)
次年度繰越支払資金	175,273,744	160,274,499	14,999,245
支出の部合計	355,291,261	316,697,255	38,594,006

# 消費収支計算書

第4号様式

法人名：学校法人 アイビーシー学園

## 消費収支計算書

平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで

(単位：円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	( 132,500,000)	( 129,404,500)	( 3,095,500)
手数料	( 4,260,000)	( 4,283,680)	(△) 23,680
補助金	( 2,750,000)	( 2,678,520)	( 71,480)
地方公共団体補助金	2,750,000	2,678,520	71,480
資産運用収入	( 50,000)	( 31,758)	( 18,242)
雑収入	( 0)	( 20,000)	(△) 20,000
帰属収入合計	139,560,000	136,418,458	3,141,542
消費収入の部合計	139,560,000	136,418,458	3,141,542

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	( 61,600,000)	( 60,846,199)	( 753,801)
教育研究経費	( 41,140,000)	( 39,623,586)	( 1,516,414)
管理経費	( 35,320,000)	( 34,398,272)	( 921,728)
消費支出の部合計	138,060,000	134,868,057	3,191,943
当年度消費収入超過額	1,500,000	1,550,401	
前年度繰越消費収入超過額	0	235,380,585	
翌年度繰越消費収入超過額	1,500,000	236,930,986	

事業報告書…<http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/10/2016jigyuhoukoku-1.pdf>

監査報告書 <http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/10/2016kansa.pdf>

(9) 学校評価

自己評価及び学校関係者評価報告書

<http://aichipet.com/wp-content/uploads/2016/05/2016.hyouka.pdf>